

令和 6 年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

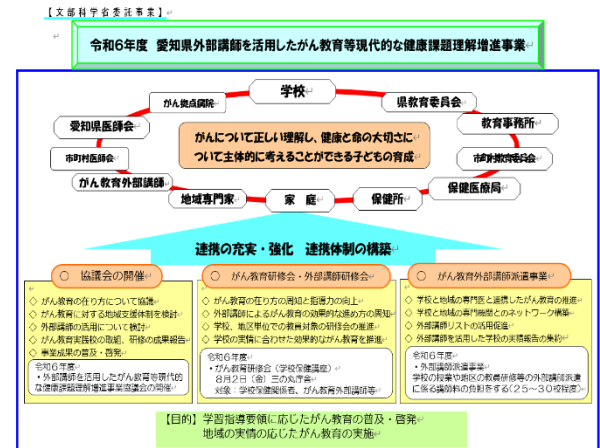
① 協議会について

1. 構成員

協議会委員 15 人

(内訳)

県医師会(内科)1名、がん拠点病院医師2名(緩和ケア・疫学研究)、元がん患者会1名、県保健医療局1名、大学准教授1名、中学校校長1名、高等学校校長1名、中学校養護教諭1名、高等学校養護教諭1名、小中学校PTA代表1名、高等学校PTA代表1名、県教育委員会3名



2. 開催時期、検討内容

第1回協議会 令和6年7月9日(火)	第2回協議会 令和7年2月4日(火)
・事業計画及びその内容等の説明 ・県のがん教育の取組状況等の説明 ・がん教育の推進に向けての意見交換	・事業報告 ・成果と今後の課題

② 教育委員会としての取組

ア がん教育研修会 ※学校保健講座と兼ねた

がん教育を推進する背景を知り、各学校におけるがん教育の具体例の作成や、参加者同士のディスカッションを通して、がん教育の可能性を広げることを目指し、教職員やがん教育外部講師を対象にした研修会を行った。

○日時 令和6年8月2日(金) 13:30~15:15

○場所 愛知県三の丸庁舎(8階大会議室)

○講義・演習 「学校におけるがん教育」

○講師 中京大学スポーツ科学部スポーツ教育学科 准教授 後藤 晃伸 氏

○参加者 小・中・高等学校教諭または養護教諭90名、がん教育外部講師9名

イ がん教育等外部講師派遣事業

学校や地域の実情に応じたがん教育の推進を図るため、学校での授業や講演、地域の教員研修等に申込みのあった学校(地区)にがん教育外部講師を派遣した。

《派遣事業期間》 : 令和6年9月13日~令和7年1月23日まで

《派遣先》 : 28学校(小学校17校、中学校7校、高等学校3校、特別支援学校1校)

ウ 研修や教材の周知、事業成果の普及・啓発

- ・文部科学省主催の研修会や教材の周知、及び学校保健関係者等の研修の機会に前年度の事業の様子や教育委員会のウェブページに掲載していることを周知し、外部講師の活用促進を促した。
- ・効果的な指導には事前の打ち合わせや「学校におけるがん教育」についての外部講師の理解が欠かせない。そのため、学校が主体となった打ち合わせがスムーズに行えるよう、県教育委員会が作成した事前打ち合わせシートや外部講師向けの配信動画を周知した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

県保健医療局主催の「県がん対策部会」の事務局として県教育委員会から参加し、「第4期愛知県がん対策推進計画」における令和6年度の取組や目標の進捗状況について協議し、学校におけるがん教育についての意見交換を行った。

(2) 外部講師を活用したがん教育の授業（一部記載）

No	実施	時間	学校名・対象学年	実施事項
1	9月 13日 (金)	13:30～15:20 (110分)	瀬戸市立 にじの丘中学校 2年	【医療関係者】学校保健委員会 「知っておこう がんのこと～大切な命を守るために～」 ○がんについて正しい理解するとともに、自分の行動（生活習慣・将来検診を受けるなど）やがん患者に対しての望ましい行動について考える機会とした。
2	11月 7日 (木)	8:55～9:45 (50分)	古知野高等学校 全日制 1年	【医療関係者】保健講話「がんについて学ぼう！」 ○専門家の話から、自分や周りの人ががんになった時に、どのように周囲の人と関わるとよいか考えさせ、緩和ケアや共生について学ぶ機会とした。
3	11月 20日 (水)	14:45～15:30 (45分)	常滑市立 大野小学校 4～6年	【医療関係者】学校保健委員会 「がんについて正しい知識を身につけよう」 ○専門家からの話を聞くことで、正しい知識や予防法、がんとの向き合い方を理解し、今の自分の生活を振り返ったり、自他の命を大切にしたりする心を育てる機会とした。
4	11月 28日 (木)	13:40～14:25 (45分)	田原市立 田原東部小学校 6年	【医療関係者】特別活動「がんを学ぶ」 ○がん治療に携わる医療者からがんに関する基本的な知識を学び、万が一、自分や身近な人ががん罹患した場合など病気との向き合い方について考えさせ、健康と命の大切さを気付かせる機会とした。
5	11月 29日 (金)	13:50～14:40 (50分)	あま市立 甚目寺南中学校 2年	【がん経験者】保健体育科・保健分野 「がんの正しい知識と自分たちができること ～がん経験者の体験談より学ぶ～」 ○日本のがんの現状について知り、生活習慣の大切さについて理解したり、がん経験者の体験談から自分の生き方や未来について考えたりする機会とした。
6	12月 6日 (金)	13:45～14:45 (60分)	幸田町立 南部中学校 2年	【がん経験者】保健体育科・保健分野 「がんについて考えよう」 ○がんに向き合う人たちの思いを知り、自分のこれからの生活を考え、自分や大切な人の健康といのちの大切さに気付かせる機会とした。
7	12月 10日 (火)	14:40～15:25 (45分)	扶桑町立 高雄小学校 5年	【がん経験者】特別活動「いのちの学習」 「『がん』から『いのち』を考える」 ○怖いなどのマイナスなイメージのあるがんについて正しく理解させ、早期発見やがん検診の大切さを学び、今を精一杯生きることについて気付かせる機会とした。
8	12月 13日 (金)	13:55～14:40 (45分)	扶桑町立 扶桑東小学校 6年	【医療関係者・がん経験者】体育科・保健領域 「がんについて知り、自分にできることを考えよう」 ○外部講師の医師から話を聞くことで、児童がもつ怖いイメージのがんについての基礎知識を学び、予防のための生活習慣を見直すことをねらった。また、がん経験者から実

				際の治療や生活の様子などについての話を聞くことで、がんを身近に捉え、自分や周りの人ががんになったらどうするかを考える機会とした。
9	12月 13日 (金)	11:35~12:20 (45分)	高浜市立 高浜小学校 6年	【がん経験者】学級活動「命の指導」 「がんを学ぼう ～あなたと大切な人の命のために～」 ○いのち・健康・生きるをキーワードに、外部講師の経験談や思いを聞き、がんという病気について理解したり、生きることや家族や身近な人の大切さについて考えさせたりする機会とした。
10	12月 17日 (火)	13:55~14:40 (45分)	豊田市立 梅坪小学校 6年	【がん経験者】学級活動 「がんについて知ろう～がんの授業を通して健康や命の大切さを学ぼう～」 ○がんは誰もがかかる可能性がある病気だが、早期に発見すれば治りやすいことや定期検診の重要性に気付かせる機会とした。また、外部講師の生き方を通して、自分のこれからの生き方を考えさせた。
11	12月 18日 (水)	13:25~14:10 14:15~15:00 (90分)	千種聾学校 5・6年	【医療関係者】体育科・保健領域 「がんについて考えよう」 ○早期発見のためにがん検診を受けることや予防のために生活習慣を整えることの大切さを知り、がんになった人に自分ができることなどを考えさせる機会とした。
12	12月 19日 (木)	9:40~10:25 (45分)	稲沢市立 大里東小学校 6年	【がん経験者】保健講座「がんについて知ろう」 ○がん経験者が病気とどのように向き合ってきたかを知ること、命の大切さを学び、自分や友達、家族を大切にする気持ちについて考えさせた。

○授業の流れ（一部記載）

○小学校【医療関係者】 ①病気ってどんなもの ②がんがすこしでも怖くなくなるためには ③病気になることを防ぐためには ④治す方法は ⑤病気があってもこれまで通り過ごすためには ⑥いのちは、はかないもの	○小学校【がん経験者】 ①がんのピアサポーターについて ②正しい知識説明・理解のためのクイズ（4問） ③がん罹患の体験談、がん罹患経験からの学び、現在の生活について ④講師の話を聞いて児童が感じたこと・考えたことを周囲と共有
--	--

○中学校【医療関係者】 ①がんとは何か ②できるだけがんにならないための話（健康習慣） ③がんになっても治るための話 ・がん検診を定期的に受けることの大切さ ・まわりの大切な人にも検診をすすめる ④もしものときの話 ・がんになった人が困ること、どう接するかなど	○高等学校【医療関係者】 ①がんについての基礎知識 ②緩和ケアについて ・どのように生きるかという視点で治療方法について考える ③がんの理解と共生 ・がん患者や家族の心の変化について ・がんを体験して感じたこと・伝えたいこと
---	--

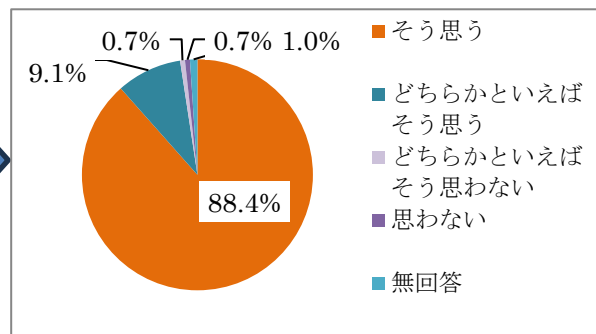
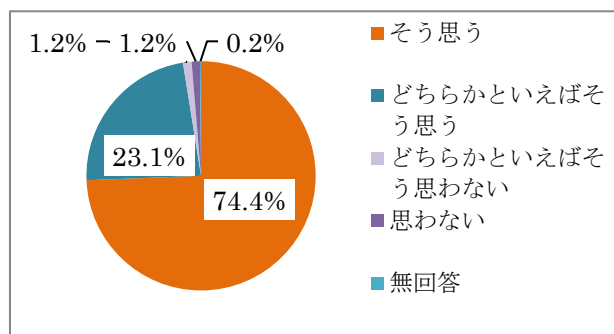
(3) その他

- ・毎年、県保健医療局から医療関係者の「外部講師リスト」の提供を受けており、今年度からがん患者団体からのリストを追加した。また、学校のねらいに沿った外部講師が選べるように、医療関係者のリストには、外部講師一人一人に講師の講話可能な内容（がんの基礎知識、予防・検診、緩和ケア、理解・共生、生き方体験談、保護者向け、小学生向け）が記載されており、愛知県内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校にリストを周知した。

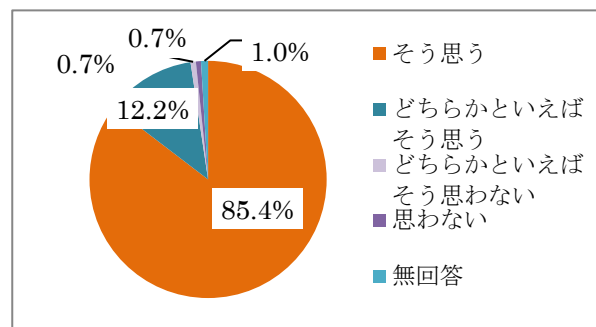
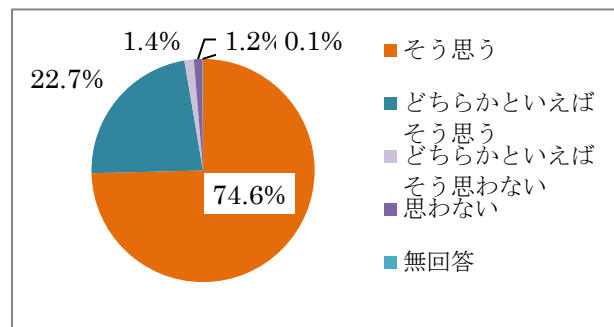
2 事業の達成度について

- ・令和6年6月からがん教育外部講師向けに、愛知県教育委員会保健体育課で作成した動画「学校におけるがん教育」を配信しており、視聴回数は約250回であった。
- ・本事業を利用し、外部講師と連携したがん教育を実施した学校は28校であり、がん教育の前後に実施したアンケートによると「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」と回答した児童生徒が約74.4%から約87.9%に増加するなど、必須回答のアンケート項目においては全て増加した。また、児童生徒の授業後の感想には、「限りある命を大切にしようとする気持ち」や「大切な人ががんになったら自分に何ができるのか」などの言葉があり、知識だけでなく、がんを自分事として考え、生き方を見つめる機会となった。

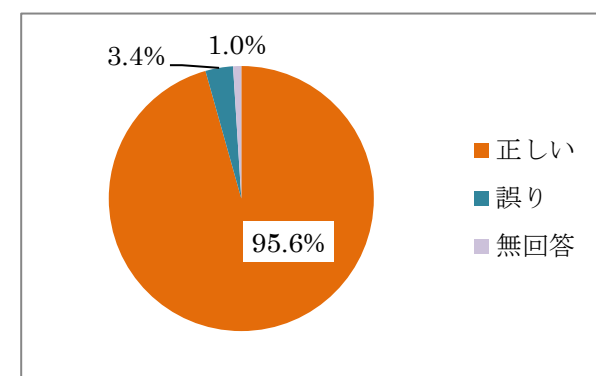
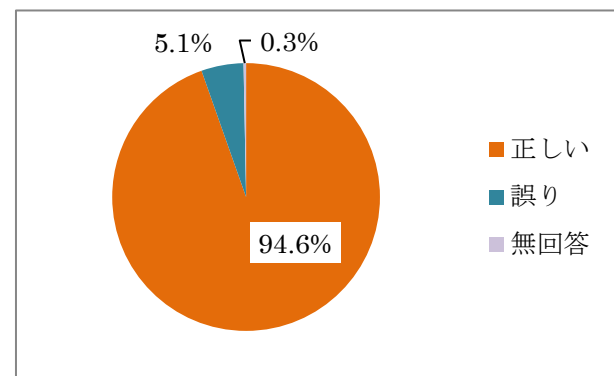
○がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。



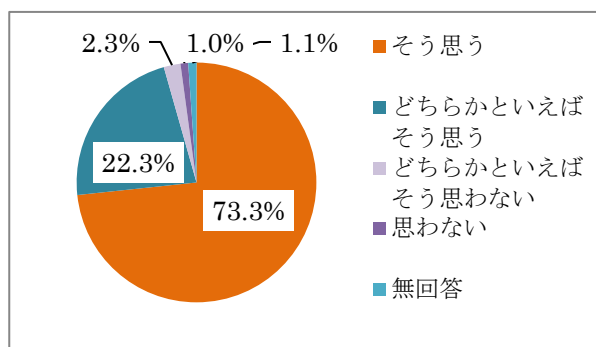
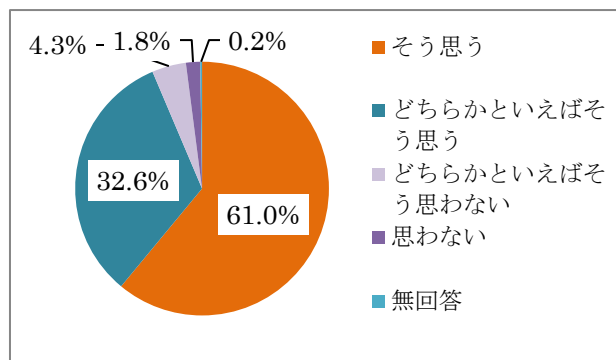
○がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。



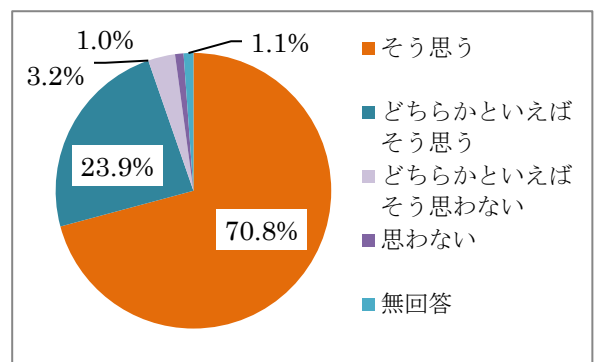
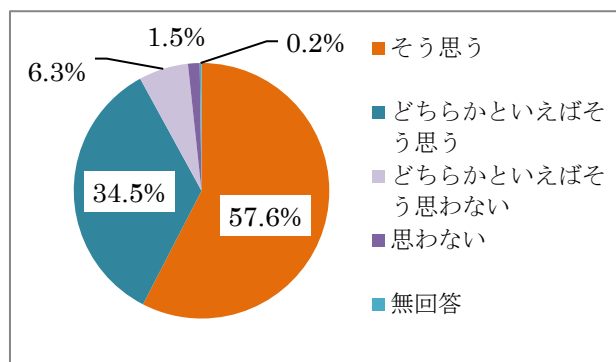
○がんは誰もがかかる可能性のある病気である。



○日頃から、バランスの良い食事や適度な運動を行うなどの健康な体づくりに取り組もうと思う。



○がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。



3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

- ・今年度より、既存の研修会である「学校保健講座」の4つの講義・演習のうち一つを「がん教育」と位置づけて開催したため、今後のがん教育における研修会についても見通しがもてるようになった。
- ・事業を利用した学校からは「行ってよかった」という報告があるが、県全体としては外部講師を活用したがん教育に取り組んでいる学校は12.6%（令和5年度）と多くはない。今後も研修等様々な機会を通して、実施校の成果を周知し、外部講師を活用したがん教育の推進が浸透していくよう図っていく必要がある。